

## ヤマザクラ *Cerasus jamasakura* (Siebold ex Koidz.) H.Ohba

バラ科 Rosaceae

1. 利用可能部位：外樹皮（コルク層）

2. 組織形態：

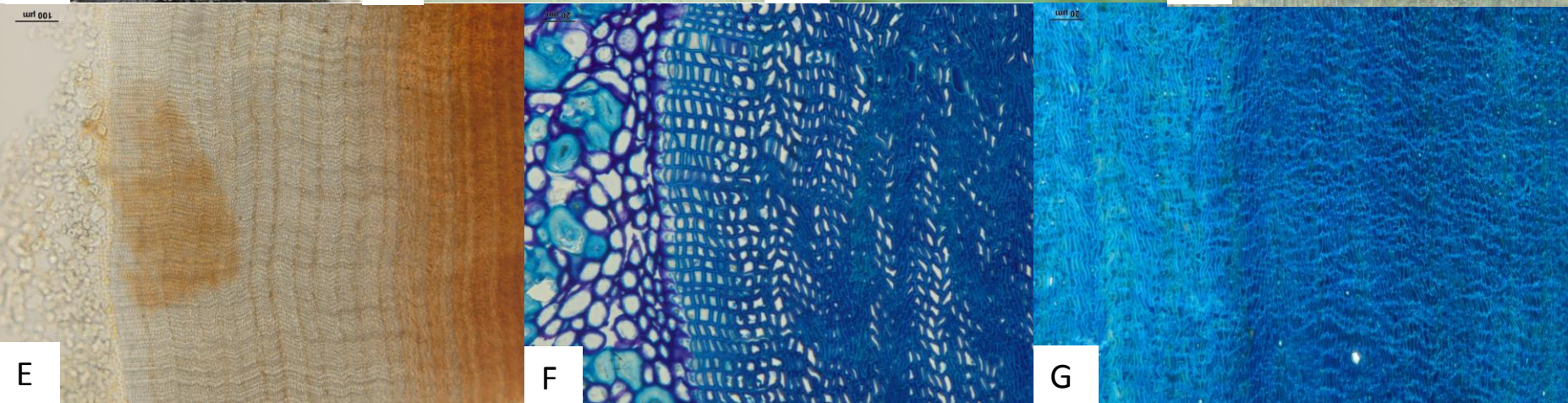
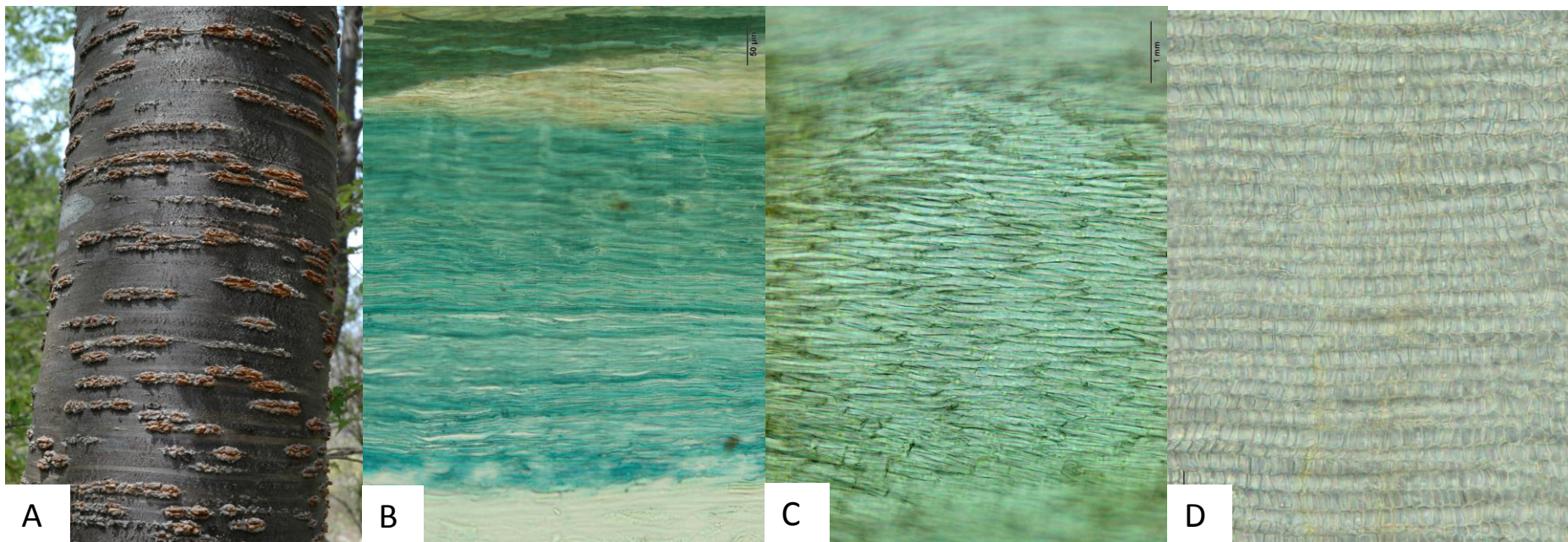
樹皮は内樹皮が厚く、外樹皮（コルク層）も比較的厚い。コルク形成層は1層のみあり、これが継続的にコルク組織を作り、結果として厚いコルク層となる。コルク皮層はほとんど認められない。コルク細胞は放射断面で接線方向に扁平な四角形～方形で、ほとんど同じかたちと大きさとで継続して作られ、針葉樹の年輪のような構造は見られないが、細胞壁の厚さと細胞の放射径のわずかな違いによりかすかな成長輪が認められる。コルク形成層付近のコルク細胞は放射断面で四角形を保っているが、外方では潰れ、さらに外側では著しく押圧され、細胞内腔は無くなっており、細胞形態は認識しがたい。押圧されていないコルク細胞は水平方向に細長く、横断面では短冊形の長方形で、接線断面では紡錘形である。

利用例：樺細工

・

遺跡出土遺物：

ヤマザクラと樹種を特定した出土遺物は無い。サクラ属の樹皮とされたものは比較的多数ある：飾り弓、儀仗などの樹皮巻き。カゴ編物、手箕などの編組製品。曲物、折敷などの綴じ紐。漆塗り樹皮製品（用途不明品）。



**A:** 比較的若いヤマザクラの樹皮。**B~G:** ヤマザクラの外樹皮(コルク層)の顕微鏡写真。**B:** 横断面。画面下が樹芯側。水平方向に細長いコルク細胞がびっしりと配列している。**C:** 接線断面。水平方向に細長い紡錘形をしたコルク細胞が隙間無く密に配列している。**D~G:** 放射断面。すべて樹芯側が左。**D:** 潰れていない最内部のコルク層の拡大(無染色)。**E:** コルク層の低倍率写真(無染色)。丸みを帯びた細胞が不規則に配列する内樹皮(画面の左1/4)の外側(画面の右3/4)には成長輪のある均一な組織(コルク組織)が厚く蓄積している。この成長輪界は他の細胞よりやや放射径が小さく、壁が多少厚い1, 2層の細胞で形成される。**F:** 放射断面の拡大。内樹皮(画面の左1/4)の最外部にコルク形成層があり、その外側に断面長方形で細胞内容物の無いコルク細胞からなるコルク層が形成されている。コルク層は形成当初は整然としているが外方(画面右)に行くにしたがい潰れる。**G:** 著しく潰れた外方のコルク層。細胞内腔は無い。